

朝読書も後半にはいりました。図書室にも新しい本がたくさん届いています。ぜひ見に来てください。



1. 平成30年10月の貸出数

学年	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
10月	72	90	45	179	13	54	453
今年度累計	853	424	481	627	91	336	2812

10月の個人貸出数ランキングは、1位11冊（中1-1、中2-3）、3位10冊（中1-2）、4位9冊（中2-1、中2-2）、6位7冊（高1-3、高3-4、高3-4）です。

2. 谷川俊太郎さん・賢作さん特集

11月8日、多摩校体育館にて、30周年記念行事の一環である、新校歌お披露目の式典がありました。作詞を担当された谷川俊太郎さん、作曲を担当された谷川賢作さんによる、詩とピアノのミニコンサートが行われ、そのあと、賢作さんの指揮で新校歌が披露されました。お二人の和やかな掛け合いに、会場は終始笑いに包まれていました。

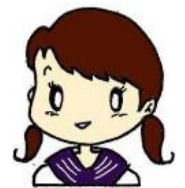
図書室では現在、俊太郎さんの詩集や、賢作さんのCDを集めた特集をしています（なんと、お二人とも式典のあと図書室に足を運んでくださいました！）。

渡り廊下でも、大きく詩の展示をしています。利用者に声をかけ、書いてもらった「私の選ぶ谷川さんの詩」も貼ってあります。ぜひ見てください。



3. 来月、蔵書点検を行います

12月13日（木）～18日（火）は、蔵書点検のため閉館します。図書室は立入禁止になり、赤本のコピーなどもできません。必要な資料がある人は、余裕をもってお願いします。また、延滞本は早めに返却してください。ご協力お願いいたします。



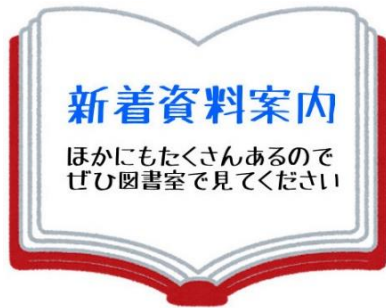
4. 古本募金、始めました

10月から、大妻学院全体で「古本募金」を始めました。これは教職員や生徒から不要な本を集めて中古書店に買い取ってもらい、そのお金を、学生・生徒の教育・研究支援に還元させよう、という試みです。

もし自宅に不要な本がありましたら、ぜひ寄付をお願いします。

多摩中高では、図書室で回収します。1冊からで結構ですので、直接カウンターに持ってきてください（B1 玄関の返却ポストには絶対に入れないでください）。

期限はありません。よろしくお願いします。



『牛車でいこう！ 平安貴族と乗り物文化』

京樂真帆子 著 吉川弘文館 (201.3/Ky5)

平安時代の移動手段、「牛車（ぎっしゃ、と読みます）」についてどれくらい知っていますか？ 実は、ランクがあったり、暗黙のルールがあったりと、古典文学を読む上で知っておくと理解の深まること書かれています。牛車で



見えてくる人間関係というのもあるので、日本史や古文が好きな人は、ぜひ読んでみてください。

『この椅子が一番！』西川栄明 編 誠文堂新光社 (758/N83)

“最も小さな建築、と言われるように、椅子は、小さいながらもこだわりの詰まった構造物。名作椅子と呼ばれるものは世界中にたくさんありますが、その形も素材もいろいろ。椅子の専門家たちがアンケートによって「推理小説を読むのにぴったりの椅子」「日なたぼっこする時に座る椅子」などの順位を決定。座ってみたい椅子がたくさんです！



『しかけに感動する「京都名庭園」』鳥賀陽百合 著

誠文堂新光社 (629.21/U55)

高校二年生にとっては修学旅行の記憶も新しいでしょう、京都のすばらしい庭園を紹介しています。建物から見える庭の風景が、まるで一枚の絵のように美しく見えるのは、その裏に数々の工夫がなされているからです。遠方にある山の風景を取り入れる「借景（しゃっけい）」、砂利を水の流れる「見立て」など、日本独自の美意識が詰まった日本庭園。もう一度、本の中で出かけましょう。



『8割の人は自分の声が嫌い』山崎広子 著 角川新書 (809.2/Y48)

日頃、話す内容に注意することはあっても、声に対して意識を向けることはほとんどないと思います。けれども、声には多くの情報が含まれており、その人や話の内容の印象を決めます。日本人女性の声は、世界の中でも高く、細いのが特徴だそうです。それは日本社会が求める女性像の反映なのではないか、と著者は述べます。自分の本当の声とは？

『世界のホットドリンクレシピ』 誠文堂新光社 編

誠文堂新光社 (596.7/Se17)

そろそろ、温かい飲み物が恋しい季節になりました！ コーヒー・紅茶・ココアにひと手間加えて、自分だけの時間を過ごしませんか？ はちみつ・しょうが・フルーツ・チョコレート etc...名称もオシャレな、ホットドリンクを、ぜひ作ってみてはいかがでしょうか。※アルコールを入れたアレンジもあるので、二十歳になるまで待ってね。



『オードリー・ヘップバーンの言葉』山口路子 著

だいわ文庫 (778.253/Y24)

「永遠の妖精」と謳われた大女優、オードリー・ヘップバーンの語録集。美しい彼女にも、コンプレックスがあり、挫折がありました。しかし、仕事も結婚も目的を見失わずに、美しく老いていきました。特別な女優ではなく、一人の女性として、私たちに色々なことを気づかせてくれる本です。